

宝物はすぐそばに

校内研通信

第7号

R7.7.17

発行者:校内研担当 仲村智

雷ごときでは動じないお互いを認めあう学級

7月17日(木)6校時、悪天候で雷鳴轟く中、亘保知宙先生が2年12組での自立活動の授業を公開しました。本時は「わかりやすい指示の出し方・伝え方」を意識しながら、協力して課題(福笑い)を解決していくことをねらいにしていました。まず導入での「グッド&ニュース」。生徒個人の何か印象的な出来事を教師とのテンポのいいやりとりの中、楽しそうに各自が発言している様子がとても良い雰囲気です。お互いの共感したところには自然と拍手がおこったり、課題プリント(ゴクトレ)の取り組んでいるときも、先に終わった生徒が当然のように友達の子のところに教えにいったりと、お互いを認め合い・教え合い・助け合う学級の温かい雰囲気が、生徒にとって居心地のいい学級をつくっているのだと感ずることができました。授業もそうですが、知宙先生の日頃の生徒への指導に基づく信頼関係づくりや学級経営が土台としてしっかりしてるんだろうなと想像してしまいました😊 知宙先生、素敵な授業をありがとうございました。



生徒が自己の活動がしやすいように主体的に環境や状況を整える態度を養うことを目的とした「自立活動」と、困り感のある生徒が他の生徒と平等に教育を受けられるようにするために行う必要かつ適当な配慮である「合理的配慮」。その違い及び関連性について考えてみよう。



例えば、小さい文字が見えにくい弱視の生徒を考えたとき・・・

①指導という視点

弱視レンズ等を活用するための知識、技能、態度及び習慣を養うことを目的に指導する。

→自立活動

②配慮という視点

他の児童と平等に授業を受けられるようにする目的で、拡大したプリントを用意する。

→合理的配慮

どちらか一方ではなく、両方の視点でみながら支援を考えていくことが大切です

学習上・生活上の困難に対する合理的配慮と自立活動の指導	
①姿勢保持が苦手で、着席の姿勢が崩れてしまう ②集団参加が苦手で、教室へ入れない ③文字を書くことが苦手で避けてしまう	
指導の視点	配慮の視点
① 動作法等で姿勢保持やポジショニングについての学習 ② 細切れの時間の参加を促すことや学習内容の調整 ③ 機器の操作方法を学ぶ	① 適切な学習機やいすの用意とフィッティング ② 視聴覚情報機器を活用した遠隔授業、学びの場を合わせる ③ 書く量の調整、ICT機器を活用した文字入力(文章表現)